

本年もよろしく

お願いいたします



岩手県職員労働組合  
役員一同



号 外=新年特集号

2022年1月1日 発行

発行日 毎月15日30日  
発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内  
岩手県職員労働組合  
印刷所 盛岡市上田二丁目17-4  
有限会社 ジロー印刷企画  
一部 40円  
組合員購読料は組合費を含む



# 仲間の結束で、本当の改善を実現する年に



## 2022年 今年もよろしくお祈いします

- 中央執行委員長 大崎 勝 弘 (花巻支部・花巻農林振興センター分会)
- 副中央執行委員長 小田嶋 智 昭 (胆江支部・土木部分会)
- 副中央執行委員長 小澤 豊 和 (県庁支部・資源循環推進課分会)
- 書記 長 佐々木 辰 治 (県庁支部・建築住宅課分会)
- 書記 次 長 藤村 秀 樹 (盛岡支部・保健福祉環境部分会)
- 中央執行委員 佐々木 結 麻 (一関支部・県税センター分会)
- 中央執行委員 飯坂 覚 (盛岡支部・産業技術短期大学校分会)
- 中央執行委員 千葉 美由喜 (盛岡支部・盛岡農業改良普及センター分会)
- 中央執行委員 千葉 拓 也 (盛岡支部・盛岡広域振興局農林部分会)
- 中央執行委員 菊池 勉 (県庁支部・管財課分会)
- 中央執行委員 高谷 琢 人 (県庁支部・管財課分会)
- 中央執行委員 佐藤 佳 之 (県庁支部・河川課分会)
- 中央執行委員 佐藤 拓 (胆江支部・保健福祉環境部分会)
- 中央執行委員 宮手 公 輔 (盛岡支部・環境保健研究センター分会)
- 中央執行委員 樋口 晃 大 (県庁支部・ふるさと振興企画室分会)
- 県庁支部長 佐々木 琢 磨 (医療政策室分会)
- 盛岡支部長 長沼 英 友 (盛岡広域振興局土木部分会)
- 花巻支部長 小野 演 彦 (総務・審査指導監分会)
- 北上支部長 和賀 佳 子 (中部農業改良普及センター分会)
- 胆江支部長 遠藤 誠 (県南広域振興局土木部分会)
- 一関支部長 播磨 基 州 (一関県税センター分会)
- 気仙支部長 昆 悦 朗 (大船渡農業改良普及センター分会)
- 釜石支部長 小原 大 (沿岸広域振興局水産部分会)
- 宮古支部長 口岩 喜 幸 (宮古土木センター分会)
- 久慈支部長 小野寺 光 文 (県北広域振興局水産部分会)
- 二戸支部長 長 嶺 達 也 (二戸農業改良普及センター分会)

皆さん、明けましておめでとございます。新年にあたり一言ごあいさつを申し上げます。昨年が奮闘した年でした。その結果、県内は最小限の感染に抑えることができたと考えています。みなさんの取組に改めて敬意を表したいと思います。しかし、新たな感染要因の発生など、未だ予断を許さない状況です。お互いを守るためにも、継続して対策に取り組ましましょう。

昨年の県職労の取組みは、コロナ禍の経済情勢から、賃金面では厳しい結果となりました。しかし、両立支援や子育て支援の観点から、休暇制度の新設・拡充を勝ち取ることができました。これらは当局に対し実態を突きつけ、何度も要求してきた成果です。



中央執行委員長  
大崎 勝 弘

県職労では今年も職場実態を基にした取り組みを行います。そのため、今の状況を一人でも多くの仲間と議論し、声を集めることが必要です。そのためには、多くの県職労加入が必要と考えます。組織の強化、より良い職場実現のため、今年もとがんばりましょう。

皆様、明けましておめでとございます。新年にあたり一言ごあいさつを申し上げます。昨年が奮闘した年でした。その結果、県内は最小限の感染に抑えることができたと考えています。みなさんの取組に改めて敬意を表したいと思います。しかし、新たな感染要因の発生など、未だ予断を許さない状況です。お互いを守るためにも、継続して対策に取り組ましましょう。

皆様、明けましておめでとございます。新年にあたり一言ごあいさつを申し上げます。昨年が奮闘した年でした。その結果、県内は最小限の感染に抑えることができたと考えています。みなさんの取組に改めて敬意を表したいと思います。しかし、新たな感染要因の発生など、未だ予断を許さない状況です。お互いを守るためにも、継続して対策に取り組ましましょう。

# 職場から真の働き方改革を！

県職労は職場や生活実態を確認し、議論しあい、その中から要求を確立し、当局に実態をぶつけながら改善を求めています。今回の取組みでも粘り強く、何度も要求する中で実現できたものと考えます。今年も職場の声をしっかり受け止め、実態を基にした改善要求を進めてまいりたいと考えています。引き続き、皆さんのご協力をよろしくお祈いします。

これまでも当局は「働き方改革」と称して、様々な制度を提案し、予算をかけ実行してきました。一人一台ノートパソコンの導入、フレックスや在宅勤務など柔軟な働き方とする諸制度など、民間で実施しているものです。しかし、このことで本当に働きやすくなっているかと言えば、疑問の声が多く、職域によっては却って困っているとの実態も聞かれています。また、肝心な人員不足が全く解消されない中、不満は一層増すばかりです。本当の改革には職場の実態を踏まえた制度とする必要があり、そのことなしには何も変わらないことは明らかです。

中部農業改良普及センター・遠野普及サブセンター分会

漁業取締事務所分会

林業技術センター分会

環境保健研究センター分会



▲中部農業改良普及センター・遠野普及サブセンター分会の皆さん

県職労には数多くの分会があり、その規模も職種も様々です。組合員の皆さんは、第一線で日々仕事をしながら、職場環境の改善を求めて頑張っています。今年も、花巻支部「中部農業改良普及センター・遠野普及サブセンター分会」、釜石支部「漁業取締事務所分会」、盛岡支部「林業技術センター分会」「環境保健研究センター分会」の4分会を紹介します。

農業技術・営農支援に全力

少数精鋭で農業振興に尽力

中部農業改良普及センター・遠野普及サブセンター分会

中部農業改良普及センター・遠野普及サブセンターは、遠野市を管轄し、職員6人の少数で業務を行っています。遠野市は、県南東部の内陸に位置し、冷涼な気候と豊かな自然環境を生かした農林業を基幹産業とし、米を中心に、野菜、ホップや葉たばこなどの工芸作物、家畜が複合経営されており、また、四季が織りな

す豊かな自然は、日本の原風景として全国の人々に親しまれ、「遠野物語」に代表される歴史と文化を活かした観光振興に取り組まれています。このような風土の中で、当所では、作物、野菜、花き、地域特産物の生産性向上のための技術支援や、新規就農者の確保・育成、集落営農組織・生産組織の営農

岩手の海の宝を守る「SP」

取締には県職労の「団結」がカギ

漁業取締事務所分会

漁業取締事務所は、漁業関係法令違反の取締り等を目的に設置された部署であり、漁業取締船「岩鷲」及び「はやちね」の2隻体制で本県沿岸・沖合の密漁や違法操業の取締りを日々行っているほか、陸上勤務職員が取締業務の企画立案等を行っています。所員は所長以下計18人で

構成され、うち6人が事務所、12人が船舶に勤務しています。このうち、事務所勤務1人は県警から派遣された警察官であり、捜査の陣頭指揮などに当たっています。事務所は釜石地区合同庁舎内にありますが、農林水産部の単独公所のため、陸上勤務職員は様々な事務作

業をこなさなければなりません。また、船舶勤務職員は各船1人が日替わりで当直をしているほか、取締業務のため早朝夜間や土曜、日曜の勤務が多く、不規則な勤務による健康面での不安が大きくなっています。県職労には、このように不安を抱えて業務している我々の相談に常に乗っていただいていますので、分会としてもメリットを伝えて新規組合員の勧誘も積極的に行いたいと考えています。

林業担い手育成・研究開発の人材配置を

森林県いわたを支える重要な研究養成機関

林業技術センター分会

岩手県林業技術センターは、職員46人（うち23人が正職員）、企画総務部と研究部、研修部、普及班の3部1班体制で構成され、企画総務部は研究の企画・調整や予算・財産管理、研究部は森林や木材などの研究、研修部はいわて林業アカデミーや各種林業研修、普及班は林業技術等の普及業務を行っています。

「研究」「研修」「普及」を三位一体として備える強みを活かし、研究の成果をいち早く現場に普及・定着できるように各種研修の開催や現地での普及活動を行っています。2017年度からは、林業現場の担い手育成の一環として「いわて林業アカデミー」を開講し、センター職員のほか県内の林業事業

支援などの業務に、関係機関と連携して、日々、邁進しています。当分会では、東日本大震災以降、10年にわたり1人欠員の状態が続いています。この間、地域・経営指導及び産地育成の各分野の多岐にわたる業務を、各職員がそれぞれいくつも掛け持ちし、年中多忙を極めていることから、一刻も早い欠員解消が必要であると考えています。

体等で構成される「サポートチーム」の協力を得ながら、研修生に現場で必要となる9つの資格を一年間で取得させるほか、林業の知識や技術の習得を図っています。おかげさまで、2020年度末までの4カ年で65人の若者を大きなケガもなく現場に送り出していますが、いざ現場を見回すとベテラン職員が多く30歳代以下の職員は2人しかいないことから、今後の技術等の継承を考えた場合、正規職員の若返りが必要であると考えています。



▲漁業取締船「はやちね」



▲漁業取締船「岩鷲」



▲林業技術センター分会の皆さん



▲環境保健研究センター分会の皆さん

コロナ感染検査の最前線で努力

専門職増員は現場の切実な要求

環境保健研究センター分会

環境保健研究センターは、保健及び環境に係る専門検査・研究機関です。2001年4月に岩手県衛生研究所と岩手県公害センターが統合され、そして2005年度に各保健所の検査部門を統合して現在に至っています。職員数は49人であり、獣医師・薬剤師・化学職等の技術職員が在籍しています。近年問題となっている野生動物の生息状況の把握、管理及び被害低減の手法等

開などで当センターに遊びにいらしてください。業務の性格上、事件事故対応やPCR検査対応等で休日出勤や長時間の超過勤務となっている職員もおります。職場で当番制を取って、この局難を乗り越えようとして対応しています。2021年11月現在は岩手県内の新型コロナウイルス感染症の発生状況は落ち着いていますが、新たな変異株等も出現し、予断を許しません。検査業務は一朝一夕ではできません。技術継承という意味でも、正規職員の定数増が今後必要であると考えています。

環境保健研究センターは、保健及び環境に係る専門検査・研究機関です。2001年4月に岩手県衛生研究所と岩手県公害センターが統合され、そして2005年度に各保健所の検査部門を統合して現在に至っています。職員数は49人であり、獣医師・薬剤師・化学職等の技術職員が在籍しています。近年問題となっている野生動物の生息状況の把握、管理及び被害低減の手法等